(2) 第6期あま市まちづくり委員会のテーマについて

テーマについての意見	テーマに対する委員会の関わり方
<ul style="list-style-type: none"> ・ルールブックを有効に活用するために検討 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「協働のためのルールブック」の活用について 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働が、より進むように市民活動団体の現状を把握し、ルールブックをより効果的に周知方法を探り、活用状況の把握とその状況に対する改善をはかり、効果を上げる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事務局案で進めるのが最も妥当。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体などの現状を把握して、活用方法などを具体的に示すことが必要。そのために、活用方法についての調査・検討が必要。 ・広く地域住民にも「ルールブック」作成の意義など理解できるように広報が必要。 ・第2期で作成された「ガイドブック」を再度見直す。
<ul style="list-style-type: none"> ・協働のためのルールブック活用 ・まちづくり学生参加推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会もしくは委員会所属の団体等で模範となるような協働事業を計画し実践してみるのも良い。(学生さんなど若い力を巻き込める事業構築)
<ul style="list-style-type: none"> ・協働のためのルールブックの活用について ・協働によるまちづくりの推進 ・市民活動センターの在り方 	
<ul style="list-style-type: none"> ・第5期において、多くの時間と様々な立場からの多くの意見により出来上がったルールブックであるため、是非とも活用していけるとよい。その観点より「協働のためのルールブック」活用についてのテーマを設定することが次のステップである。 ・もう一つの観点として、あくまでも「協働」が主目的であり、その手立てとして「ルールブック」が存在するとなると考えると、今期出来上がったルールブックについて、実際にどのように活用されたか、使い勝手は良かったかとか、「協働」を行うに際し、「ルールブック」がどれくらい有用であったかを検証または検証する手立てを考えていくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来期のテーマが「「協働のためのルールブック」活用について」であるとすれば、それぞれの立場から、テーマで挙げたことについて、意見交換・情報交換を行っていくとよい。(学校の立場としては、ルールブックにどのように関わっていくかは悩みますが…) ・その中で、ルールブックが有効に活用され、よりよいものに改善され、協働の活性化。

<ul style="list-style-type: none"> ・協働そのものや今回作成した『協働のためのルールブック』を多くの人に知ってもらうことをテーマにするのが良い。 ・テーマ（案）の中にあつた学生などの若い世代にどう関わってもらうかを考えるのも良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会メンバーの中に学生の方や「これから協働を目指す方」を数名入れる必要がある。その方たちを軸に議論を進める方が協働の裾野が広がる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ルールブックの活用が実際にできているのかの確認や改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にルールブックを使用して協働を実施した人から意見を聞き、さらに、実施した例として、協働テキストを作成する（協働への思い、実際に行ったこと、気を付けたこと、協働をしてみて思ったこと等） ・これらを作ることで、まだ協働をしていない方へ協働のイメージをしてもらい身近に感じてもらい、そして、またルールブックを活用してもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ・どの意見も必要なことで選ぶのが難しいですが、ルールブックを作った次期なので、スモールステップとして、『「協働に対する理解の促進」（協働に対する理解促進方法、考案と実践（ルールブック・ガイドブックも活用））』がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見が二つに割れた時、ハイブリッドな答えや3つ目の新たな答えが出せるとよい。 ・『もっと市民が住みやすい街になる為に』という目的で参加しているので攻撃的なご意見や態度ではなく、できない理由を言うのではなく、肩書きをなくし経験値をもって共に創っていく意識を持って関わり、安心安全の雰囲気を生み出すとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市で決定してもらう方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールブックの活用をもっと広げてほしい。 ・委員会で決めた事など市民にわかってもらう様に。（例 あま市の歌を作ったが活用されていない。）
<ul style="list-style-type: none"> ・ルールブックの早期完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・このスピードで、協働のためのルールブックを作成していると、完成がいつになるかわからない。 ・完成した頃には、もっと改正案が必要になっていたりする可能性や変化を求められる。

<ul style="list-style-type: none"> ・第5期の活動内容をもとに、継続性のある具体的な地域課題に特化した施策の企画立案が必要。 ・第三者から見たときに適正な評価を受けることができる内容とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第6期の活動内容は活発な議論につながっていない。まちづくり委員会のベースとなる、「あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例に基づき制定」、「あま市まちづくり委員会規則」について、共通の認識が持たれていないため。 ・あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例に基づき制定されている、あま市まちづくり委員会規則にまずは立ち戻る必要があると考え、3年、5年、10年、20年、それぞれの将来においてあま市をどのようにしたいか、どうすべきかを議論する必要がある。そのうえで、まちづくり委員会として具体的なゴールを設定する必要があると考えます。例えば、KPI、KGI、KSFなど目標設定を明確化。 ・あま市職員に聞くと建設的な話ができる方がみえて協働していくことができる。実際にPDCAをまわしながら形にすることができるかという点では非常に疑問が残ります。できた書類の言葉尻や体裁は本来委員会で議論すべき内容ではなく、大枠の考え方や課題に対するアドバイザリーボードとしての役割をまちづくり委員会は担うべきである。 ・具体的な活動としてあま市主催事業の企画運営などを通じて形に残る結果を残す。 ・まちづくり委員会では存在意義に疑問があり「ただ開催しているだけ」と市民からとられる。 ・絵を描くことも必要ですが、それを実行に移すためにどうするか、市民がよりまちづくりにかかわるために検討が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> ・決まった議題をどう進めて行くか委員長を中心に委員で決める。(委員長一任でも良い) ・会議には、別の課の職員が参加する日を設けて、その課で協働できる可能性のある事業を考えて貰う。

各意見からのテーマの内訳			
・ルールブックの活用 6件	・学生など若い世代の参加推進 2件	・ルールブックの検証や改善 2件	・ルールブックの周知 1件
・協働に対する理解の促進 1件	・協働によるまちづくりの推進 1件	・市民活動センターの在り方 1件	・市で決定 1件
・ルールブックの早期完成 1件	・継続性のある具体的な地域課題に特化した施策の企画立案 1件		